

第1日

9月6日(水)

セッションA 一般テーマ 尺度構成・多変量解析 会場Ⅱ(5124番教室)

座長：河口至商(北大・工)・高倉節子(東京女学館短大)

(9:30~12:00)

分

- A-1 反応度数表をもとにしたものの布置の分析——主成分分析の手法の応用
：浦本 勲(愛知コロニー) 20
- A-2 欠測値を含む場合のMDA-O Rの計算法について :高倉節子(東京女学館短大) 15
- A-3 Chino's AS YMSCALとその応用について :千野直仁(愛知学院大・文) 15
- A-4 次元数を考慮した多次元尺度構成の一方法:今泉 忠(東工大・システム科学) 15
- A-5 個人差を考慮した非計量的MDS: SCARFとINDSCAL :岡太彬訓(立教大・社)・今泉 忠(東工大・システム科学) 15
- A-6 3-WAY カテゴリカルデータにおける予測問題 :岩坪秀一(電総研) 20
- A-7 3相因子分析の適用をめぐる諸問題:村上隆・後藤宗理・辻本英夫(名大・教育) 20
- 討 論

セッションB 一般テーマ 社会医学・臨床医学 会場Ⅲ(5125番教室)

座長：白崎和夫(東大・医)・宮原英夫(北里大・医)

(10:00~11:45)

分

- B-1 各種疾患の死亡構造に関する主成分分析 :白崎 和夫(東大・医) 15
- B-2 骨盤形態に関する因子分析:久保武士(筑波大・臨床医学系)・加納克己(同・社会医学系)・赤塚孝雄(同・基礎医学系) 15
- B-3 末梢神経の縫合・再生過程の確率モデル:有田清三郎・仮谷太一(川崎医大)・松田英雄(呉共済病院) 15
- B-4 脳卒中死亡統計修正の試み(第2報)その後の改良:廣田安夫・大石範子(九州歯科大) 15
- B-5 生命表分析における観察開始時点——全身性エリテマトーデス(SLE)の生命表分析を例として——:宮原 英夫(北里大・医) 15
- 討 論

13:00~14:00 総 会 会場Ⅰ(5121番教室)

パネルディスカッション 総合テーマ「因果性をめぐる問題」(同上)

(14:00~17:30)

座長：池田 央(立教大・社)

- 14:00~14:20 因果性について:野崎 昭弘(山梨大)
- 14:20~14:40 因果性と認識の枠組(Framework):佐伯 胖(東京理科大・理工)
- 14:40~15:00 因果性をめぐる問題——法的意志決定の場面で:松原 望(筑波大・社会工学系)
- 15:00~15:20 学習目標の階層的到達性の問題:梶田毅一(日本女子大・文)
- 15:20~15:40 社会学における因果モデルの構築:直井優(東大・文)
- 15:40~16:00 医学における因果関係論——主に疫学の立場から:中江公裕(独協医大)
- 16:00~17:30 総合討論
指定討論者: 山本 俊一(東大・医)
戸田 正直(北大・文)
竹内 啓(東大・経)

第2日

9月7日(木)

セッションC 一般テーマ 臨床・医用電子 会場Ⅱ(5124番教室)

- (9:30 ~ 12:10) 座長:後藤昌司(塩野義・解析センター)・井上通敏(阪大・医) 分
- C-1 疾病の非線型力学モデル:○田中 博・青木隆夫・山野井 昇・平柳 要・谷島一嘉・古川俊之(東大・医) 20
- C-2 情報理論的相関分析による症候選択について:趙 顕泰(早大・理工) 20
- C-3 CPD(児頭骨盤不均衡)の判別分析——内部標本の誤分類数を最小とするアルゴリズムの提案 :三宅章彦(日医大)・○新村秀一(住商コンピューターサービス)鈴木正勝・松木玄篤・武井二郎(日医大) 15
- C-4 判別関数による糖尿病治療群の判別:○高木広文・豊川裕之(東大・医) 15
- C-5 循環器疾患発症要因の検討——検査成績・栄養摂取量の主成分分析——○辻岡克彦・嶋本喬・上島弘嗣(大阪府立成人病センター)・井上通敏・武田 裕・稲田 紘・阿部 裕(阪大・医)・梶谷文彦(川崎医大・ME) 15
- C-6 コンパドメントモデルによる薬剤投与の最適化法:○楠岡英雄(阪大・工)・井上通敏・稲田紘・堀正二・武田裕・阿部裕(阪大・医)・梶谷文彦(川崎医大・ME) 15
- C-7 構造既知の場合のコンパートメントシステムの同定問題について:○梶谷文彦・伯耆徳武・今村正敏・鍵山光庸・三戸恵一郎(川崎医大・ME)・井上通敏・辻岡克彦・楠岡英雄・阿部 裕(阪大・医)・川越恭二・児玉慎三(阪大・工) 15
- C-8 Two-compartment モデルの統計的評価;パラメータ推定の問題:○井上俊昭・後藤昌司(塩野義・解析センター) 15
- 討 論

セッションD 一般テーマ 社会・心理 会場Ⅲ(5125番教室)

- (9:30 ~ 12:15) 座長:上笹 恒(筑波大・哲学思想学系)・丸山久美子(青学大・文)分
- D-1 日常生活行動圏の測定に関する一考察——都市の主婦の調査より——:吉田晶子(東工大・社会工学) 15
- D-2 住民の行政ニーズの実証的研究:日高広見(社)日本能率協会総合研究所) 15
- D-3 情報量増大のもつ合意形成効果に関する実証的研究——神奈川県民討論会をケース・スタディとして——:熊田禎宣・○根本敏則(東工大・工) 20
- D-4 日本人の態度基底構造の計量的分析(その1)——日本人の死生観の意識構造を中心として——:上笹 恒(筑波大・哲学思想学系) 15
- D-5 日本人の態度基底構造の計量的分析(その2)——日本人の死生観に関する意識構造を中心として——:丸山久美子(青学大・文) 15
- D-6 Marketing における Conjoint Measurement の適用:○永松 純(立教大・社)・香川 眞(大阪産業大・経営) 15
- D-7 一対比較による意識占有度の計量化(その1):○脇本和昌(岡山大・教養)・天野牧夫(広島修道大・人文)・菅野長武(鳥城高校) 20
- D-8 一対比較による意識占有度の計量化(その2)——RPO解析——:○菅野長武(鳥城高校)・垂水共之(岡山大・教養) 20
- 討 論

第2日

9月7日(木)

12:15～14:00 懇親会

セント・ポールズ会館

セッションE

特別テーマ

会場II(5124番教室)

(14:00～17:20) 座長: 壽田鳳輔(東京都立母子保健院)・今井四郎(北大・文) 分

質と量

- E-1 AICによるカテゴリーの設定法: 坂元慶行(統数研) 20
- E-2 認知判断の質的特性と量的特性: 今井四郎(北大・文) 20
- E-3 薬物の質的差を測る——向精神薬を例にして——: 高橋行雄(日本ロシュKK
開発本部) 20

予知と予防

- E-4 病的不安に適用した3-WAY分析(立体重症度): 〇林峻一郎(慶大・医)・
岩坪秀一(電総研) 20
- E-5 年齢と日常の身体活動性の自覚の型: 西村純一(職業研究所) 20
- E-6 災害避難システムについてII: 〇青山博次郎・大隅 昇(統数研) 20
- E-7 予知制御の研究: 〇谷島一嘉・田中 博・平柳 要・木下重博・青木隆夫・山野
井 昇・青木和夫・古川俊之(東大・医) 20

患者と医者と治療と

- E-8 人工知能(AI)手法の診断への応用: 〇開原成允(東大医)・小山照夫(都老
研)・垣花昌明(東大・医)・南川忠利・会田一夫(東芝総研)・川村 昇(都
老研)・八坂敏夫・小松俊明・中野勝之(PL) 15
- E-9 対人関係に基礎をおいた診療行為の数理モデル: 壽田鳳輔(東京都立母子保健院) 15
討 論

第3日

9月8日(金)

特別講演

会場 I (5121 番教室)

司会：浅井邦二 (早大・文)

10:00 ~ 11:00 交通流の計測と制御：池之上慶一郎 (科学警察研究所交通規制研究室)

11:00 ~ 12:00 災害の行動科学研究の現況：安倍北夫 (東京外国語大学)

セッション F 一般テーマ 数理統計・プログラミング 会場 II (5124 番教室)

- (13:00 ~ 16:20) 座長：浅野長一郎 (九大・理)・仮谷太一 (川崎医大) 分
- F-1 多重分割表における変数モデル：吉澤正・志村健一 (山梨大・工) 20
- F-2 多重分割表におけるモデル選択：吉澤正 (山梨大) 20
- F-3 順序のあるカテゴリカル・データの解析について (II)：仮谷太一 (川崎医大) 15
- F-4 分枝限定法による多アイテム順序カテゴリーの数量化：森川敏彦・田中 豊 (武
田薬品・試験解析室) 15
- F-5 潜在クラス分析のある解法について：須川和明・佐藤義治・河口至商 (北大・工) 15
- F-6 連結ベクトル図による重相関分析の安定性 (I)：平松惇・脇本和昌 (岡大・教養) 15
- F-7 情報量規準に関する数値実験：田栗正章 (千葉大・理)・井上隆勝 (千葉大・工)
・本多正章・橋本明浩 (千葉大・理) 15
- F-8 対話により統計計算プログラムを作成するプログラム：久慈 要 (東工大・工) 20
- F-9 統計プログラム・パッケージ：NISAN について —NISAN におけるクラスター分
析の利用法 —：浅野長一郎 (九大・理)・脇本和昌 (岡山大・教養)・大隅 昇
(統数研) 20
- F-10 Data investigation の方法論；NISAN System におけるデータ変換の機能：
・牡丹義広・後藤昌司 (塩野義・解析センター)・浅野長一郎 (九大・理・基礎情報研) 15
- 討 論

第3日

9月8日(金)

セッションG 一般テーマ 心理・教育・言語 会場Ⅲ(5125番教室)

(13:00~16:45) 座長：中谷和夫(京大・教養)・西川泰夫(上智大・文) 分

G-1	視空間に関する二、三の考察：新保 勝・山ノ井高洋・佐藤義治・河口至商(北大・工)	15
G-2	閾値決定問題への判別分析の応用：大津展之(電総研)	20
G-3	手書き文字の自動認識：中谷和夫(京大・教養)	20
G-4	視覚課題解決過程への確率過程論的考察：西川泰夫(上智大・文)	15
G-5	探索理論と注意の分割について：神宮英夫(都立大・人文)	15
G-6	学習プログラムの思考過程推論の一提案——学習課題に対する生徒たちの正反応の関連構造分析——：竹谷 誠(日本電気中央研究所)	20
G-7	学習過程のLISPシミュレーションモデル：石井 巖(立教大・文)	15
G-8	討論過程における発言者遷移についての分析——討論の対話性について——：永岡慶三(東海大・教養)・中山匡・大月誠・吉田宏・藤田廣一(慶大・工)	15
G-9	社会行動実験室：丹羽富士雄・倉谷好郎・司馬正次・和合肇(筑波大・社会学系)	20
G-10	実用的な自動品詞分類法：小谷善行(東京農工大・工)	20
G-11	確率比による漢訳仏典訳者の推定：後藤義乗(龍谷大)	20

討 論

立教大学5号館 1階

